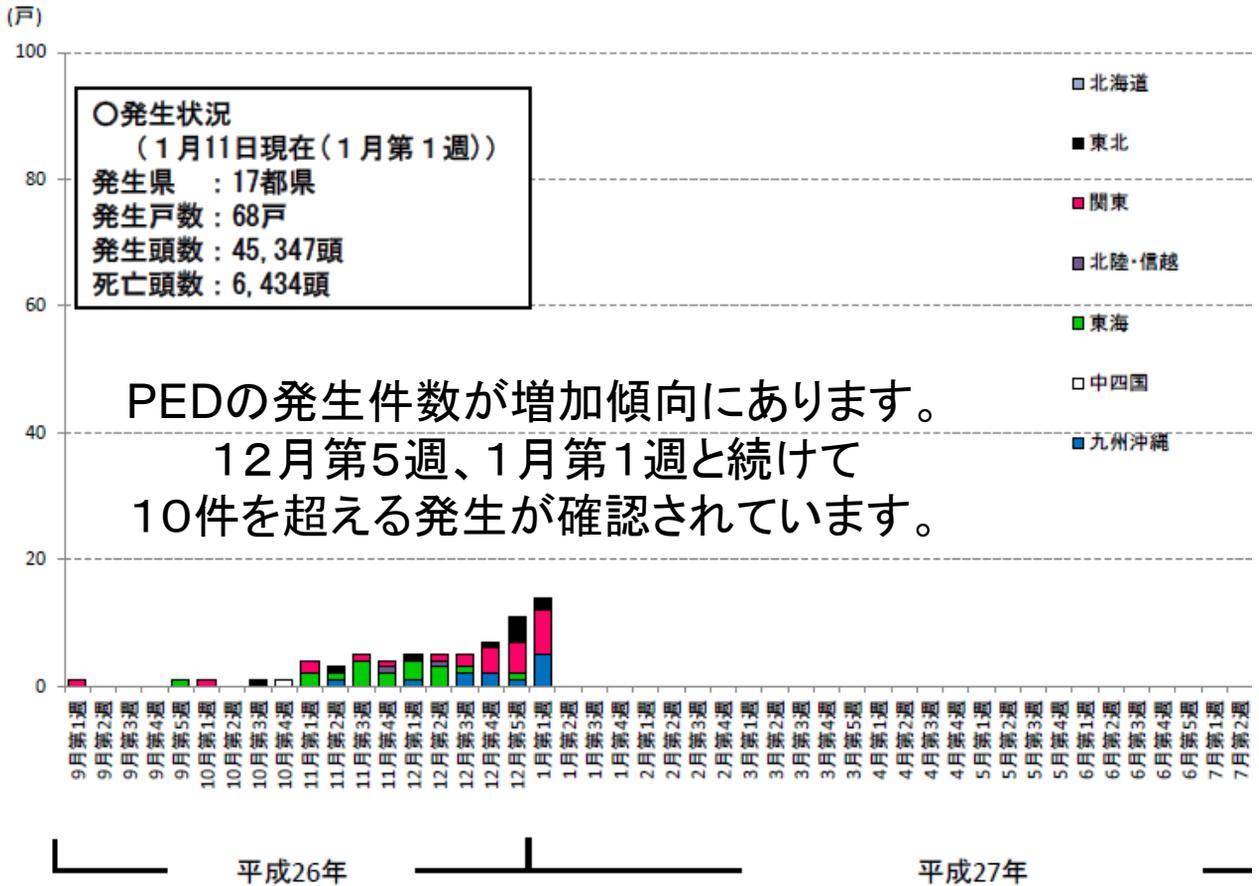


豚流行性下痢(PED)の好発シーズンです

豚流行性下痢の発生件数の推移(週毎・ブロック別) 【平成26年9月～】



・9月以降にも近隣県(愛知、三重)で発生しています。

・PEDワクチン接種率は約7割で推移していると考えられます。農場内伝播の防止対策も実施され、これまでのところ発生農場での死亡割合は低い水準です。しかし今般、同一系列下にある複数の大規模農場(ワクチン非接種)での発生が確認され、ほ乳豚の死亡割合が非常に高い事例がみられました。

➡ 対策を再徹底しましょう！(裏面)

異状があったらすぐに家畜保健衛生所(総合庁舎 0577-33-1111)まで連絡してください。
※平日時間外(午前8時30分～午後5時15分以外)や休日の電話に対しては、
「電話交換業務が終了しています。」に続く、
「お急ぎの場合は、そのまま「1番」をダイヤル願います。」
の案内メッセージに従って対応をお願いします。

飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX32-9019

E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo-koyo/nogyo/kachikueisei/hidakaho/>



1. 飼養衛生管理の徹底

- ・農場や畜舎の出入口での消毒、衣服の更衣、長靴の履き替え



消毒液の凍結に注意

- ・導入豚は隔離豚舎へ
作業者は専従とし、資機材も専用のものを使用
- ・野生動物の侵入防止
網を設置、残った餌をこまめに片付ける
- ・分娩舎の作業者は専従とし、資機材も
専用のものを使用する
(困難な場合は、分娩舎の作業から始める)
こまめに豚舎を洗浄及び消毒する



2. 積極的なワクチン接種

- ・万が一農場にウイルス入ってしまった場合も被害を最小限に抑える
- ・排せつ物のこまめな適切な処理や、豚舎の消毒等を徹底することで、十分なワクチンの効果を引き出すことができる
- ・ワクチン接種をしても、飼養衛生管理は重要です

発生を適切に発見するためには、・・・

毎日の飼養豚の健康観察をより丁寧に行い、異状を的確、迅速に見つけることがポイントです